

## 相関処理結果ファイル名の命名則について

近藤哲朗

**変更点：**ファイル命名則のデフォルトは fx\_cor または cor では Type 1、fx\_cor\_all または cor\_all では Type 2 でしたが、corr/cor\_head.h 中で記述するように変更されています。通常デフォルトはすべて Type1 ですが、デフォルトを変更するには cor\_head.h 中の ”\_COUT\_NAMING\_RULE ” を書き替えてからコンパイルし直します。ですので、以前のように cor と cor\_all で異なったデフォルトをセットすることはできませんが、ご容赦ください。

相関処理結果 (cout ファイル) の命名則は以下の通りです。どの Type の指定は、-orule コマンドでセットします。デフォルトは corr/cor\_head.h 中の ”\_COUT\_NAMING\_RULE ” でコンパイルする前に指定します。通常は Type1 にセットされています。相関処理結果ファイルは -odir で指定されるディレクトリです。-odir での指定がない場合、環境変数 K5COUT で指定されるディレクトリ、環境変数がセットされていない場合は ../cout が出力ディレクトリとなります。

命名則

### Type 0

固定ファイル名

cout.txt . . . fx\_cor の場合  
coutt.txt . . . cor の場合

### Type 1

coutNNNN.txt . . . fx\_cor, fx\_cor\_all の場合  
couttNNNN.txt . . . cor, cor\_all の場合

ここで NNNN は通し番号 ( 4 桁 )

### Type 2

coutEXP\_CODE/coutYYDDDNNNNXYG.txt [.E] . . . fx\_cor, fx\_cor\_all の場合  
couttEXP\_CODE/couttYYDDDNNNNXYG.txt [.E] . . . cor, cor\_all の場合

ここで EXP\_CODE -- 実験コード  
YY -- 西暦下 2 桁  
DDD -- 通日  
NNNN -- スキャン ( 観測 ) 番号 ( 4 桁 )  
XY -- 基線 I D ( 2 文字または 4 文字 )  
G -- 使用 P C ( 周波数 c h グループに対応 ) を示す I D ( a,b,c,d )

E -- 同じ条件で2回以上走らせた場合1,2,3の順で番号がつく

coutEXP\_CODE および couttEXP\_CODE というディレクトリが自動的に作られる

### Type 3 (Type 2 からディレクトリ部を除いたもの)

coutYYDDDDNNNNXYG.txt[.E] . . . fx\_cor, fx\_cor\_all の場合

couttYYDDDDNNNNXYG.txt[.E] . . . cor, cor\_all の場合

ここで YY -- 西暦下2桁

DDD -- 通日

NNNN -- スキャン(観測)番号(4桁)

XY -- 基線ID(2文字または4文字)

G -- 使用PC(周波数chグループに対応)を示すID(a,b,c,d)

E -- 同じ条件で2回以上走らせた場合1,2,3の順で番号がつく